

近年の高度化された車両の診断に。

車両診断テスター

# DT-3300



ハイブリッド車から  
輸入車、  
トラックやバスの  
診断作業をサポート!

高機能な**DF3300**に  
オシロスコープ機能を  
持たない高性能タイプの  
**DF3300-STN**が  
新登場!

**Japan venture**

# DT-3300-OSI

オシロ付

# DT-3300-STN

オシロ無

## オシロスコープ

- ・2CHのストレージオシロを搭載。
- ・測定条件自動設定の採用で、簡単に誰でも各種信号の観測が可能。

## 疑似信号

- ・アナログ信号、パルス信号を出力。
- ・センサ信号を補正して出力する機能及び周波数やデューティの設定可能。

## 高性能でリーズナブル

- ・オシロスコープの機能は搭載していませんが、診断車種、基本的な診断機能は、DT-3300-OSIと同じです。

## 大きな画面

- ・12cm×9cmワイドLCDを搭載し、8項目のデータを1画面に表示可能。
- ・ソフトキーの採用で、操作が簡単。



## CAR-TB購入後にソフト追加可能

- ・CAR(乗用車ソフトセット)でご購入後に、24V車ソフト追加購入可能。
- ・TB(24V車ソフトセット)でご購入後に、乗用車ソフト追加購入可能。

## 3種類から選択できます

- ALL フルセット(乗用車、24V車)
- CAR 乗用車セット(国産乗用車&輸入車)
- TB 24V車セット(トラック&バス)

## CAR-TB購入後にソフト追加可能

- ・CAR(乗用車ソフトセット)でご購入後に、24V車ソフト追加購入可能。
- ・TB(24V車ソフトセット)でご購入後に、乗用車ソフト追加購入可能。

## 3種類から選択できます

- ALL フルセット(乗用車、24V車)
- CAR 乗用車セット(国産乗用車&輸入車)
- TB 24V車セット(トラック&バス)



## CAR

### 乗用車セット

DT-3300に乗用車ソフトをセットしました。

## ALL

### フルセット

DT-3300に乗用車ソフトと24V車ソフトの両方をセットしました。

## TB

### 24V車セット

DT-3300に24V車ソフトをセットしました。

## イグニッション2次波形測定



オシロスコープでイグニッション2次波形を観測

- ・各気筒の点火波形を比較し、点火不良気筒の検出や始動不能時の火花確認に最適。

## DT3300オプション



### DT-ISZ

24V車カブラセット。平成19年以前のいすゞ車の診断及び平成15年以前のふそう車の診断に



### DT-3003

温度信号ユニット。水温センサの特性異常に関する故障診断に。



### DT-PIC<sup>(※)</sup>

ピックアップセンサ。イグニッションの点火波形測定に。

(※) DT-3300-OSI専用オプション

## DT-3300-OSIセット(オプション除く)

- ・標準診断カブラ装着者の診断作業が行えるセットです。
- ・平成19年以前のいすゞ車は、DT-ISZが必要です。



製品名	仕様および用途
アルミ製ケース	460×330×150
DT-3300本体	228×148×55
OBDケーブル	3m標準仕様品
ACアダプタ	電源供給
USBケーブル	1m標準仕様品
GNDクリップ	アース
測定ケーブル	信号測定
プローブ	アカ、クロ

## DT-3300-STNセット(オプション除く)

- ・OSIセットからオシロスコープ機能を除いたセットです。
- ・車両の基本的な診断機能による違いはありません。



製品名	仕様および用途
アルミ製ケース	460×330×150
DT-3300本体	228×148×55
OBDケーブル	3m標準仕様品
ACアダプタ	電源供給
USBケーブル	1m標準仕様品

# DT-3300-OSI オシロ付

# DT-3300-STN オシロ無

## ● 診断車種一覧

		DT-3300-オシロ付			DT-3300-オシロ無		
		DT-3300-OSI			DT-3300-STN		
		OSI-ALL	OSI-CAR	OSI-TB	STN-ALL	STN-CAR	STN-TB
診断車種	乗用車	軽自動車	●	●		●	●
		小型車	●	●		●	●
		ハイブリッド	●	●		●	●
		電気自動車	●	●		●	●
		乗用車	●	●		●	●
		1BOX	●	●		●	●
		輸入車 ※1	●	●		●	●
24V車 ※2	小型トラック	●		●	●		●
	中型トラック	●		●	●		●
	大型トラック	●		●	●		●
	小型バス・マイクロバス	●		●	●		●
	路線バス	●		●	●		●
	大型バス	●		●	●		●
	フォークリフト	●		●	●		●

※1: 輸入車は診断ソフト機能表をご覧ください。 ※2: 24V車診断ソフト対応表をご覧ください。 ●印が診断可能な車種です。

## ● 機種別 診断車種一覧

		DT-3300-オシロ付			DT-3300-オシロ無		
		OSI-ALL	OSI-CAR	OSI-TB	STN-ALL	STN-CAR	STN-TB
診断機能	故障コード表示	●	●	●	●	●	●
	故障コードの消去	●	●	●	●	●	●
	FFD(フリーズフレームデータ)	●	●	●	●	●	●
	データ表示	●	●	●	●	●	●
	データ記録	●	●	●	●	●	●
	データ比較	●	●	●	●	●	●
	アクティブテスト	●	●	●	●	●	●
	作業サポート	●	●	●	●	●	●
	疑似信号テスト	●	●	●			
	ストレージオシロ	●	●	●			
電圧測定	●	●	●				

●印が機種別診断機能です。

## ● オプション一覧(有償)

		DT-3300-オシロ付			DT-3300-オシロ無		
		OSI-ALL	OSI-CAR	OSI-TB	STN-ALL	STN-CAR	STN-TB
オプション	DT-ISZ 24V車カプラセット	●	①	●	●	①	●
	DT-PIC ピックアップセンサ	●	●	②			
	DT-3003 温度信号ユニット	●	●	●	●	●	●

※: オプションの価格は別紙価格表をご覧ください。

●印が機種別診断機能です。

①印は24V車ソフトを追加した場合に利用できるオプションです。

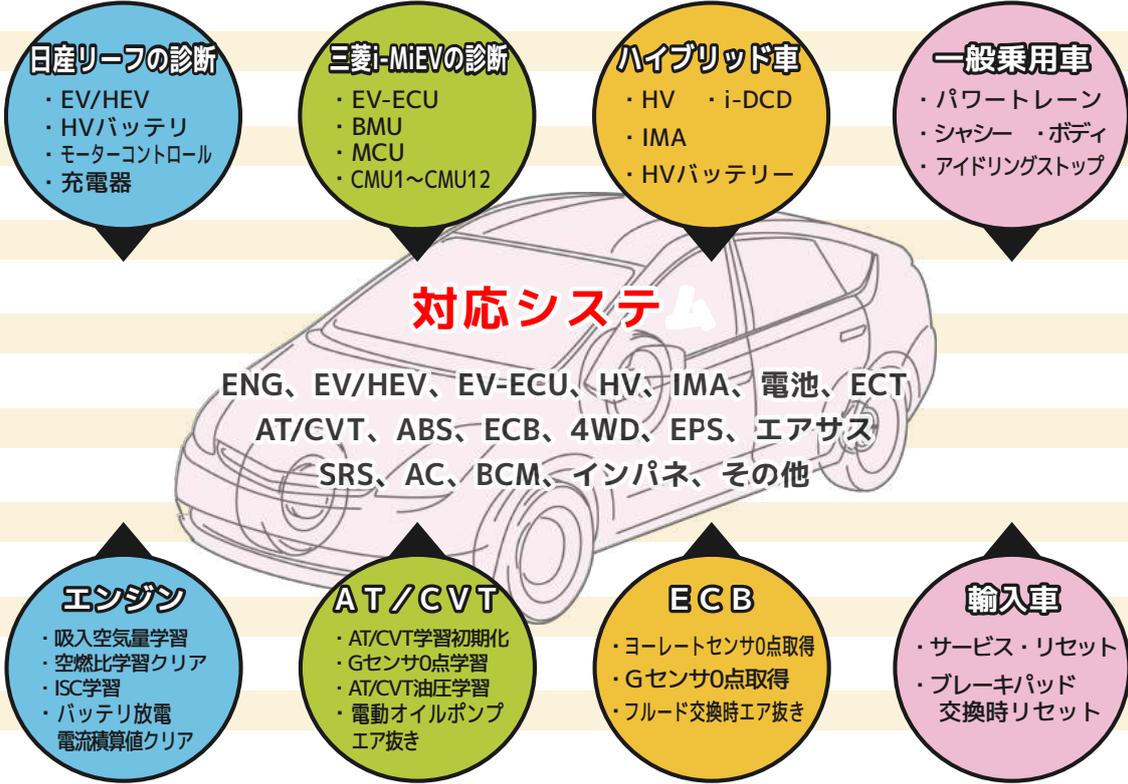
②印はダイレクトイグニッション搭載車に利用できるオプションです。

# ●乗用車診断の特徴

軽自動車からリーフやi-MiEVなどの電気自動車、プリウスやインサイトなどのハイブリッド車まで幅広く対応し、輸入車は、ベンツやBMWなど欧州車に対応しています。



DT-3300



# ●画面表示の手順を参考にスムーズな作業！

※DT-3300画面表示(イメージ)の一部を掲載。

### ■HV車、電子制御ブレーキ車のブレーキエア抜き手順表示

① ブレーキフルードのエア抜き

エア抜き  
メモリ関連作業  
モード移行

④ ブレーキフルードのエア抜き

以下の条件を確認して下さい。  
- 車両が停止していること。  
- パーキングブレーキが引いてあること。  
- IG ONであること。

[次へ]を選んで下さい。

戻る 次へ 終了

② ブレーキフルードのエア抜き

通常のエア抜き  
アクチュエータ交換時

⑤ ブレーキフルードのエア抜き

ブレーキペダルを踏んだ状態でRR輪のブリーダプラグを緩めて下さい。

[次へ]を選択して下さい。

次へ 終了

③ ブレーキフルードのエア抜き

ブレーキシステム内のエア抜きを行います  
注意:エア抜き中にリザーバタンク内のブレーキフルードが下限を下回らないように気をつけて下さい。

[次へ]を選んで下さい。

次へ 終了

⑥ ブレーキフルードのエア抜き

RR輪のエアが抜けるまでブレーキペダルを踏み続けて下さい。

[次へ]を選択して下さい。

次へ 終了

### ■IMA車のスタータテスト

**スタータテスト**

IMA車のスタータ始動のモータ始動を強制的に止めてスタータ始動させます。  
車種によってはこのテストでスタータの始動が出来ない場合があります。

ENTキーを押して下さい。

### ■スタータ作動回数リセット

**スタータ作動回数の消去、かきこみ**

4/5  
スタータ作動回数を消去、書込みます。  
作動回数を入力して、[登録]ボタンを押して下さい。  
作動回数を消去する場合は、「0」を入力して下さい。

戻る 次へ

### ■吸入空気量

**吸入空気量**

注意事項  
電子制御スロットルまたはEGCS G/U交換した場合は暖機後 無負荷でスロットル全閉位置学習を1回または3回行ってから吸入空気量学習を行う必要があります。

確認

### ■CVT油圧ポンプエア抜き

**CVT油圧ポンプエア抜き**

CVT油圧ポンプエア抜き機能  
本機能はCVT油圧ポンプ交換時に実施して下さい。  
以下の条件を確認して下さい。  
-エンジン停止かつIG ON  
[次へ]ボタンを押すと CVT油圧ポンプエア抜きを実施します。

次へ

### ■シーケンシャルターボ

**シーケンシャルターボ**

シーケンシャルターボに関連するソレノイドバルブの動作点検を行います。

実行 停止

### ■吸入空気量

**吸入空気量**

スロットル全閉学習操作要領

- IG SWをON-OFFにする。(OFF後約5秒間保持する)
- この時スロットルバルブが作動する(作動音がある)ことを確認する。
- 上記の操作により学習が完了する。

確認

※説明用にエア抜き作業手順の画面表示(イメージ)の一部を掲載。

# ●トラック & バス診断の特徴

小型車、中型車、大型車、ラフタークレーンやフォークリフトなど特殊な車両まで対応し、KK、KLなど、10年以上経過した車両から現在発売中の車両まで対応しています。



DT-3300

**いすゞ**

- ・ENG、スモーカー、尿素SCR
- ・ABS、エアサス
- ・イモビ、BCM、SRS
- ・クラッチフリー、その他

**日野**

- ・ENG、AT、プロシフト
- ・ABS、EBS
- ・SRS、SCR
- ・車両制御、イモビ

**三菱ふそう**

- ・ENG、AT、INOMAT
- ・モーター、バッテリーコントロール
- ・ABS、EZGO、ACM
- ・SRS、イモビ、尿素
- ・統合制御、その他

**UDトラックス**

- ・ENG
- ・ESCOT
- ・UDS
- ・小型(OEM元診断機能)

## 対応システム

ENG、AT、INOMAT、スモーカー、プロシフト、ESCOT  
 アイドルストップ、尿素SCR、UDS、ABS、EZGO、ACM  
 SRS、BCM、MIMAMORI、クラッチフリー、セルモーターリセット  
 DPF強制再生、インジェクタIDコード登録

**登録、学習**

- ・ポンプ交換時学習
- ・インジェクタID登録
- ・エンジンオイル認識値リセット

**強制再生**

- ・DPF差圧測定
- ・DPF強制再生
- ・差圧チェック

**アイドルストップ**

- ・メンテナンスデータクリア
- ・運行データクリア
- ・スタータ作動回数確認、書き込み

**クラッチフリー**

- ・摩耗データ読み取り
- ・摩耗データ登録

# ●画面に表示される説明で操作は簡単！

※DT-3300画面表示(イメージ)の一部を掲載。

<p><b>DPF強制再生の手順と操作説明</b></p> <table border="1"> <tr> <th>DPD強制再生</th> <th>DPR差圧チェック</th> </tr> <tr> <td>                     作業要領                      ①エンジン停止状態(15分以上経過)でエンジンオイルを点検し、オイルレベルを記録する。                      ②イグニッションキーON(エンジン始動しない)でDPD関係の故障コードを点検する。                      故障コードがある場合は、消去する。                      ③水温 80℃以上までエンジンを暖機する。                 </td> <td>                     PAGE 1/1                      最大差圧 5.6kpa  <hr/>                     エンジン回転数 600rpm                      エンジン水温 80℃                      排気温度(IN) 200℃                      排気温度(OUT) 210℃                      DPR 差圧 1.0kpa                 </td> </tr> </table>	DPD強制再生	DPR差圧チェック	作業要領 ①エンジン停止状態(15分以上経過)でエンジンオイルを点検し、オイルレベルを記録する。 ②イグニッションキーON(エンジン始動しない)でDPD関係の故障コードを点検する。 故障コードがある場合は、消去する。 ③水温 80℃以上までエンジンを暖機する。	PAGE 1/1 最大差圧 5.6kpa <hr/> エンジン回転数 600rpm エンジン水温 80℃ 排気温度(IN) 200℃ 排気温度(OUT) 210℃ DPR 差圧 1.0kpa	<p><b>インジェクタIDコードの登録</b></p> <table border="1"> <tr> <th>インジェクタ IDコード登録</th> </tr> <tr> <td>                     6412556756781235789512000000EF  <table border="1"> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>→</td> </tr> <tr> <td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>←</td> </tr> <tr> <td>8</td><td>9</td><td>A</td><td>B</td><td>???</td> </tr> <tr> <td>C</td><td>D</td><td>E</td><td>F</td><td>開始</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	インジェクタ IDコード登録	6412556756781235789512000000EF <table border="1"> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>→</td> </tr> <tr> <td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>←</td> </tr> <tr> <td>8</td><td>9</td><td>A</td><td>B</td><td>???</td> </tr> <tr> <td>C</td><td>D</td><td>E</td><td>F</td><td>開始</td> </tr> </table>	0	1	2	3	→	4	5	6	7	←	8	9	A	B	???	C	D	E	F	開始	<p><b>尿素水添加量テスト</b></p> <table border="1"> <tr> <th>尿素水添加量テスト</th> </tr> <tr> <td>                     PAGE 1/3                      ・尿素水添加を強制的に作動させます。                      ・規定の時間で尿素水を 20±3g 添加します。                      [テスト条件]                      ・構成部品「AdBlue マーキング・ユニット」の取外しを確認します。                      ・AdBlue マーキング・バルブを適切な計量カップに固定                      ・イグニッション ON                 </td> </tr> </table>	尿素水添加量テスト	PAGE 1/3 ・尿素水添加を強制的に作動させます。 ・規定の時間で尿素水を 20±3g 添加します。 [テスト条件] ・構成部品「AdBlue マーキング・ユニット」の取外しを確認します。 ・AdBlue マーキング・バルブを適切な計量カップに固定 ・イグニッション ON
DPD強制再生	DPR差圧チェック																													
作業要領 ①エンジン停止状態(15分以上経過)でエンジンオイルを点検し、オイルレベルを記録する。 ②イグニッションキーON(エンジン始動しない)でDPD関係の故障コードを点検する。 故障コードがある場合は、消去する。 ③水温 80℃以上までエンジンを暖機する。	PAGE 1/1 最大差圧 5.6kpa <hr/> エンジン回転数 600rpm エンジン水温 80℃ 排気温度(IN) 200℃ 排気温度(OUT) 210℃ DPR 差圧 1.0kpa																													
インジェクタ IDコード登録																														
6412556756781235789512000000EF <table border="1"> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>→</td> </tr> <tr> <td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>←</td> </tr> <tr> <td>8</td><td>9</td><td>A</td><td>B</td><td>???</td> </tr> <tr> <td>C</td><td>D</td><td>E</td><td>F</td><td>開始</td> </tr> </table>	0	1	2	3	→	4	5	6	7	←	8	9	A	B	???	C	D	E	F	開始										
0	1	2	3	→																										
4	5	6	7	←																										
8	9	A	B	???																										
C	D	E	F	開始																										
尿素水添加量テスト																														
PAGE 1/3 ・尿素水添加を強制的に作動させます。 ・規定の時間で尿素水を 20±3g 添加します。 [テスト条件] ・構成部品「AdBlue マーキング・ユニット」の取外しを確認します。 ・AdBlue マーキング・バルブを適切な計量カップに固定 ・イグニッション ON																														
<p><b>DPD強制再生</b></p> <table border="1"> <tr> <th>DPD強制再生</th> <th>DPD再生データリセット</th> </tr> <tr> <td>                     PAGE 1/1                      暖機中  <hr/>                     DPD モード 95                      エンジン回転数 600rpm                      エンジン水温 80℃                      排気温度 1 200℃                      排気温度 2 200℃                      排気差圧 5.0kpa                 </td> <td>                     PAGE 1/1                      実行中  <hr/>                     エンジン回転数 600rpm                      DPD モード 5                      DPD 距離ステータス 3                      DPD 再生不良 0                      DPD 再生未完了 0                      DPD 蓄積ステータス 3                 </td> </tr> </table>	DPD強制再生	DPD再生データリセット	PAGE 1/1 暖機中 <hr/> DPD モード 95 エンジン回転数 600rpm エンジン水温 80℃ 排気温度 1 200℃ 排気温度 2 200℃ 排気差圧 5.0kpa	PAGE 1/1 実行中 <hr/> エンジン回転数 600rpm DPD モード 5 DPD 距離ステータス 3 DPD 再生不良 0 DPD 再生未完了 0 DPD 蓄積ステータス 3	<p><b>インジェクタ・シリンダテスト</b></p> <table border="1"> <tr> <th>インジェクタ・シリンダ1 テスト</th> </tr> <tr> <td>                     PAGE 1/3                      [テスト条件]                      ・停止状態の車両                      ・エンジン回転数をアイドルにします。                      ・トランスミッションをニュートラルポジションにします。                      [テスト手順]                      ・制御を実行します。(約 10 秒間)                 </td> </tr> </table>	インジェクタ・シリンダ1 テスト	PAGE 1/3 [テスト条件] ・停止状態の車両 ・エンジン回転数をアイドルにします。 ・トランスミッションをニュートラルポジションにします。 [テスト手順] ・制御を実行します。(約 10 秒間)	<p><b>ターボチャージャー交換リセット</b></p> <table border="1"> <tr> <th>ターボチャージャー交換リセット</th> </tr> <tr> <td>                     PAGE 1/1                      構成部品「ターボチャージャー」交換後の認識作業を行います。                      [前提条件]                      ・イグニッション ON                      ・エンジン:アイドル                      ・水温:60℃以上                 </td> </tr> </table>	ターボチャージャー交換リセット	PAGE 1/1 構成部品「ターボチャージャー」交換後の認識作業を行います。 [前提条件] ・イグニッション ON ・エンジン:アイドル ・水温:60℃以上																				
DPD強制再生	DPD再生データリセット																													
PAGE 1/1 暖機中 <hr/> DPD モード 95 エンジン回転数 600rpm エンジン水温 80℃ 排気温度 1 200℃ 排気温度 2 200℃ 排気差圧 5.0kpa	PAGE 1/1 実行中 <hr/> エンジン回転数 600rpm DPD モード 5 DPD 距離ステータス 3 DPD 再生不良 0 DPD 再生未完了 0 DPD 蓄積ステータス 3																													
インジェクタ・シリンダ1 テスト																														
PAGE 1/3 [テスト条件] ・停止状態の車両 ・エンジン回転数をアイドルにします。 ・トランスミッションをニュートラルポジションにします。 [テスト手順] ・制御を実行します。(約 10 秒間)																														
ターボチャージャー交換リセット																														
PAGE 1/1 構成部品「ターボチャージャー」交換後の認識作業を行います。 [前提条件] ・イグニッション ON ・エンジン:アイドル ・水温:60℃以上																														
<p><b>DPR状態表示</b></p> <table border="1"> <tr> <th>DPR状態表示</th> </tr> <tr> <td>                     PAGE 2/3                      目詰まり警告レベル OFF                      [ON時は洗浄]                      目詰まり危険レベル OFF                      [ON時は洗浄]                      触媒劣化 OFF                      [ON時は洗浄]                      触媒劣化仮判定 OFF                      [ON時は洗浄]                 </td> </tr> </table>	DPR状態表示	PAGE 2/3 目詰まり警告レベル OFF [ON時は洗浄] 目詰まり危険レベル OFF [ON時は洗浄] 触媒劣化 OFF [ON時は洗浄] 触媒劣化仮判定 OFF [ON時は洗浄]	<p><b>エンジン履歴初期化</b></p> <table border="1"> <tr> <th>エンジン履歴初期化</th> </tr> <tr> <td>                     初期化を行う項目を選択してください。  <input type="checkbox"/> エンジン履歴データ  <input type="checkbox"/> PM推積履歴データ                 </td> </tr> </table>	エンジン履歴初期化	初期化を行う項目を選択してください。 <input type="checkbox"/> エンジン履歴データ <input type="checkbox"/> PM推積履歴データ	<p><b>インジェクタ・シリンダ1 テスト</b></p> <table border="1"> <tr> <th>インジェクタ・シリンダ1 テスト</th> </tr> <tr> <td>                     PAGE 2/3                      ・実測値に注目します。                      ・実測値が変化します。                      ・制御中、エンジン・ラフが発生します。                      ・イグニッションを OFF にした後、再び ON します。                      [注意事項]                      テスト前に故障コードの点検を実施し、故障コードがある場合は、消去して下さい。                      テスト実行中、妥当でない値により故障コード                 </td> </tr> </table>	インジェクタ・シリンダ1 テスト	PAGE 2/3 ・実測値に注目します。 ・実測値が変化します。 ・制御中、エンジン・ラフが発生します。 ・イグニッションを OFF にした後、再び ON します。 [注意事項] テスト前に故障コードの点検を実施し、故障コードがある場合は、消去して下さい。 テスト実行中、妥当でない値により故障コード	<p><b>エンジンオイル認識値リセット</b></p> <table border="1"> <tr> <th>エンジンオイル認識値リセット</th> </tr> <tr> <td>                     PAGE 1/1                      構成部品「エンジンオイル」の認識値をリセットします。                      [前提条件]                      ・イグニッション ON                      ・エンジン停止                 </td> </tr> </table>	エンジンオイル認識値リセット	PAGE 1/1 構成部品「エンジンオイル」の認識値をリセットします。 [前提条件] ・イグニッション ON ・エンジン停止																			
DPR状態表示																														
PAGE 2/3 目詰まり警告レベル OFF [ON時は洗浄] 目詰まり危険レベル OFF [ON時は洗浄] 触媒劣化 OFF [ON時は洗浄] 触媒劣化仮判定 OFF [ON時は洗浄]																														
エンジン履歴初期化																														
初期化を行う項目を選択してください。 <input type="checkbox"/> エンジン履歴データ <input type="checkbox"/> PM推積履歴データ																														
インジェクタ・シリンダ1 テスト																														
PAGE 2/3 ・実測値に注目します。 ・実測値が変化します。 ・制御中、エンジン・ラフが発生します。 ・イグニッションを OFF にした後、再び ON します。 [注意事項] テスト前に故障コードの点検を実施し、故障コードがある場合は、消去して下さい。 テスト実行中、妥当でない値により故障コード																														
エンジンオイル認識値リセット																														
PAGE 1/1 構成部品「エンジンオイル」の認識値をリセットします。 [前提条件] ・イグニッション ON ・エンジン停止																														



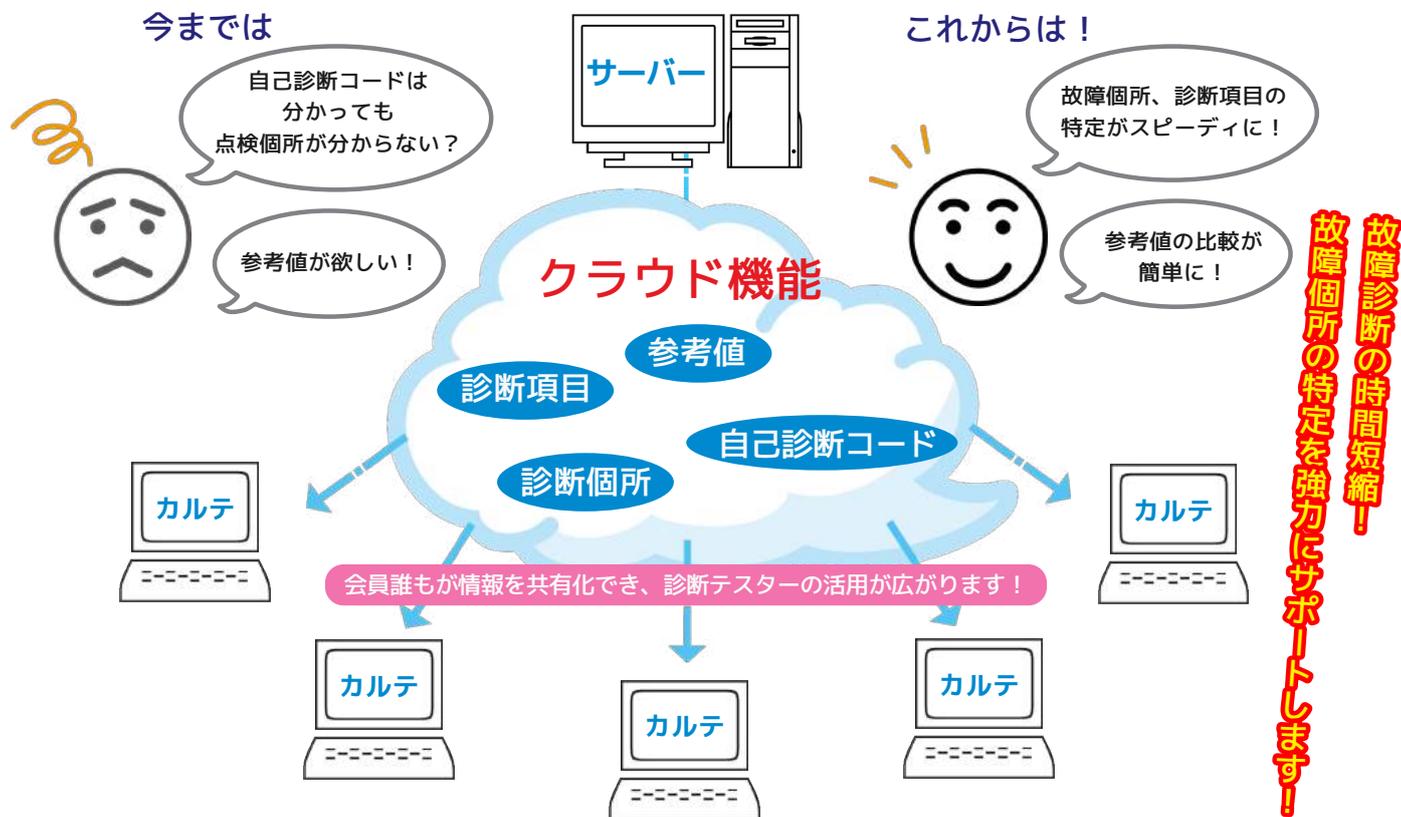
# クラウド活用診断システム

「カルテ」と当社サーバーを活用して高機能な診断システムを実現しました！

診断テスター単体では故障コードと項目を表示するだけで、点検箇所は分かりませんでした。

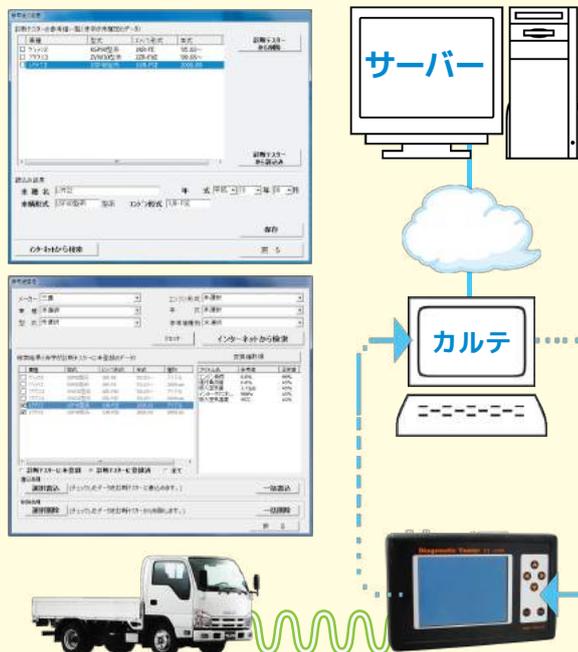
カルテは読み取った故障コードを使って当社サーバーから関連する故障診断の内容や点検箇所を表示します。

また、読み取った参考値データをサーバー登録及びダウンロードしてデータ比較し、異常データ項目を抽出します。



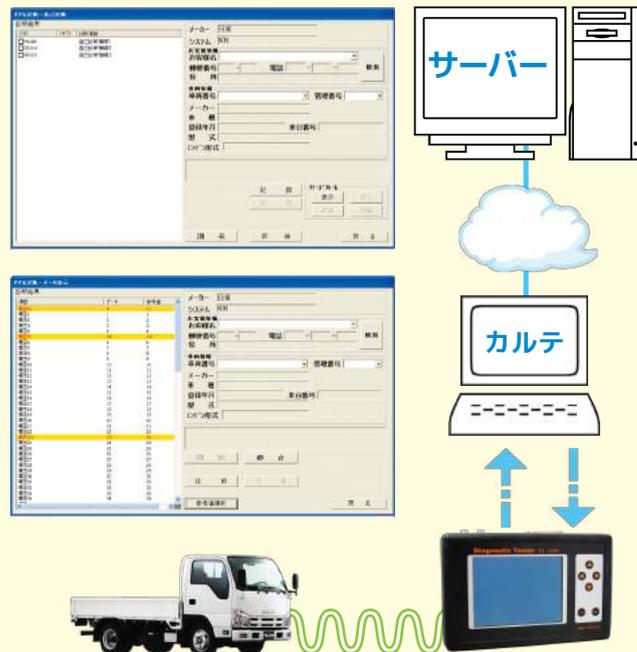
## 基本システム

診断作業はテスター単体で行います。診断結果や参考値を記録し、事務所のPC「カルテ」と接続しレポート印刷やクラウド機能を使用します。



## リアルシステム

診断テスターとノートPCやタブレットPCを接続して「カルテ」のリアル診断を実行します。リアルタイムにクラウド機能を活用できます。

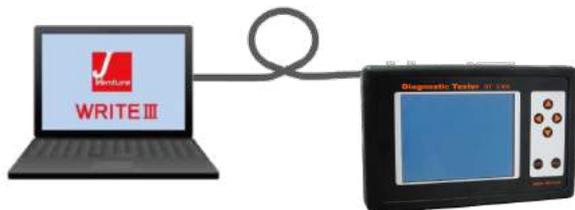


## 診断ソフトのバージョンアップ

診断ソフトのバージョンアップは、「WRITE3」(ライトリー)をインストールしたパソコンをインターネットに接続して簡単に行えます。

操作の手順は次の通りです。

①パソコンとDT-3300をUSBケーブルで接続



②DT-3300のメニューから[ダウンロード]を選択

③パソコンの「WRITE3」を起動します。

④[自動書き込み]をクリック

⑤[確認]→[OK]をクリック

操作は簡単です。

※診断ソフトのバージョンアップには、ベンチャークラブにご入会いただく必要があります。

## お客様サポート

商品納入時のパソコンセットアップや診断ソフトアップデートの方法など納入時の説明は、担当スタッフが電話でサポートしますのでお気軽にお電話ください。

お客様にスキャンツールの操作方法を電話にてサポートさせていただきます。

車両のデータは基準値、診断情報及び不具合箇所につきましては、(一般社団法人)日本自動車整備振興会連合会のFAINES(ファイネス)にご加入いただき内容の確認をお願いします。

## 診断セミナー (有料です)

診断テスターを導入しても、自己診断コード表示と消去機能だけにかつようしていたのでは、センサの特性異常による故障現象や空燃比の異常による故障現象など、エンジン制御と点検方法を理解していないと診断できない故障現象があります。

車両のOBD機能は、もっと多くの情報を提供してくれます。

故障整備の可否は、メカニックの診断技術の有無で決まります。

このセミナーはガソリンエンジンやディーゼルエンジンの故障診断を行う上で必要な知識やDPF強制再生など日常行う作業の知識を座学と実技を通して習得し、車両整備が安全確実に円滑に行えるよう診断技術の養成を行うセミナーです。

### セミナー概要

	項目	時間	内容
1	座学	1 h	エンジンシステムと構成部品
2	座学	1 h	各種システムの制御と点検方法
3	実技	1 h	診断テスターを使用した基本的な点検方法
4	実技	1 h	例題による故障診断の実施と発表
5	その他		開始時間10:00 終了時間15:00



### お問い合わせ

製品に関するお問い合わせ

TEL. 029-305-8667

FAX. 029-305-8668

診断サポートのお問い合わせ

TEL. 050-3492-0344

電子メールによるお問い合わせ

Email: info@japan-venture.com

電話での受付は、土曜、日曜、祝日を除き9:00~18:00の受付です。

このカタログの記載内容は予告なく変更することがございます。

## 株式会社 日本ベンチャー

本社  
〒310-0852  
茨城県水戸市笠原町1532-9  
TEL:029-305-8667(代表)

大阪営業所  
〒577-0807  
大阪府東大阪市菱屋西1-9-10  
TEL:06-4306-3455

<http://www.japan-venture.com>

# Japan venture

### 販売店